

Y11a 京都府教育委員会との連携事業：金環日食出前授業

野上 大作, 柴田 一成 (京都大学), 丸川 修 (京都府教育委員会), ほか金環日食出前授業関係者一同

京都大学大学院理学研究科附属天文台では様々なアウトリーチ活動を推進しており、京都府教育委員会とも密接なつながりを持って数々の事業を行ってきた。

その一環として、京都府教育委員会において2010(平成22)年度から実施された「子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業」により、府内の小学校・中学校・高校に出向いて行う出前授業にも積極的に協力している。特に、「七夕」をテーマとした出前授業では、理学研究科附属天文台を中心として、宇宙物理学教室などの教員、研究員、大学院生が自分の研究内容の紹介を柱に、学校側と十分相談して内容等を決めながら、平成22年度は47校で、平成23年度は16校で、本年度は12校で実施した。

今回、5月21日に282年ぶりに京都で金環日食が見られることを踏まえて、「金環日食の起こる仕組み」や「安全に観察するための方法」を学習することを主眼として、「金環日食出前授業」を5月10日から18日までの期間に実施した。小学校56校、中学校16校、高校13校、特別支援学校1校、放課後子ども教室1教室の合計87校・教室から希望があり、「七夕出前授業」と同様に理学研究科附属天文台を中心として32名が講師を務め、全ての学校・教室で授業を行うことができた。その講師のうち11名は大学院生、8名は研究員で、教員は13名(うち1名は名誉教授)であった。受講した児童生徒は10,000人を上回り、さらに同席した教職員や保護者・友人等への波及効果を考慮すると、教育委員会との連携によって非常に大きな教育・普及効果があったものとする。